

第9回 北東アジア農業農村発展国際シンポジウム

北東アジア畑作農業の発展戦略

共催：鹿児島大学農学部、富山大学極東地域研究センター

後援：JA 鹿児島県経済連

日時：2012年11月7日（水） 10:00～17:30

場所：鹿児島大学農学部（鹿児島市郡元1-21-24）

近年、中国は大豆の世界第一位の輸入国となっており、とうもろこしの輸入も増える兆しをみせている中で、畑作における国際競争力の確保が大きな課題となっております。また、韓国については、農協改革による経済事業と信用事業の分離が行われている中で、農産物の農協系統販売組織の見直しとともに、FTAの締結により輸入拡大が予想されている畑作物目についての国内対策が大きな政策的なイシューとなっております。一方、日本においては、園芸品目の輸入拡大もさることながら、労働力使用的な畑作経営においては高齢化・過疎化に伴う農業労働力不足に悩まされています。本シンポジウムは、このような、畑作農業の展開をめぐって、日本、中国、韓国の各々の国が置かれている環境や抱えている課題について情報を交換し、討論する場として位置づけております。

プログラム

午前 10:00～ 場所：鹿児島大学農学部共通教育棟 32 セミナー室

[特別セッション] テーマ：グローバル化下の日韓農業・農村

酒井富夫（富山大学教授）：米生産の国際競争力ー日本と韓国の比較ー

金泰坤（韓国農村経済研究院研究委員）：条件不利地域の所得問題と対策

午後 13:00～ 場所：鹿児島大学農学部共通教育棟 101 号室

開会のご挨拶（鹿児島大学農学部長）

座長解題（酒井富夫：富山大学教授）

報告および討論

[日本セッション]

安藤光義（東京大学准教授）：外国人研修生を活用した野菜作経営の展開

李 哉沄（鹿児島大学准教授）：野菜作経営における労働市場サービスの活用

[韓国セッション]

李 相学（釜山大学教授）：韓国の農協改革の意義と展望

李 漢星（釜山大学教授）：畑作地域における集落総合開発の成果と課題

*****休憩*****

[中国セッション]

郭 俊芳（中国農業大学大学院生）：中国馬鈴薯の国際競争力についての分析

朱 俊峰（中国農業大学副教授）：中国畑作物の規模生産と規模収益についての実証研究

総括討論

閉会のご挨拶（JA 鹿児島県経済連）

懇親会 鹿児島大学生協中央食堂

* * *

参加される方は、下記連絡先まで所属と人数をお知らせください。

学生も聴講できます。参加は無料です。

連絡先：

鹿児島大学農学部 李 哉沄 lee@agri.kagoshima-u.ac.jp

富山大学極東地域研究センター 酒井富夫 tsakai@eco.u-toyama.ac.jp